

# 東小だより

長月号



文責 校長 田崎正明

## 「のびる」二学期へ

残暑厳しい初秋、毎週末の台風への備え、感染症への対応と、心身ともに緊張が続いています。そんな中でも、東っ子は元気に学校生活を送っています。一学期に身に付けた生活様式により規則正しく学校生活を送っています。「履物を揃える」「礼儀正しく挨拶や返事をする」「きまりや時間を守る」など、豊かな人間性の高まりが感じられる東っ子となっています。今学期から縦割班による掃除活動を取り入れました。五・六年生がリーダーとなって一・二年生に優しく関わり、よきお兄さん・お姉さんとしての言動を見せています。三・四年生は、黙々と自分の役割を果たし、その姿は下級生の手本となっています。本年度の教育指導の重点として掲げた「主体性の育成」にむけて、我々教職員と東っ子全員で進んでいるところです。さて、二学期は行事をはじめ多様な教育活動を計画しています。教室の外での学習に、日常の学びを生かしながら、「すすんで、自分で、自分たちで」ということを実感できる取組の実現を目指します。活動を通して、全員が心を耕し、目標達成とともに、友だちへのやさしさを行動にあらわせたことを誇りに思えるように。そして、その姿を私たち大人がしっかりと認め、ほめ、励ましていきたいと考えます。みんなが「のびる二学期」の実現が図られるように考えます。ご支援並びにご協力をお願い致します。

## 全国学力・学習状況調査について

全国学力・学習状況調査の結果が公表されました。この調査は、四月に六年生が国語・算数・理科の教科の調査と学習環境や生活環境のアンケート調査に取り組んだものです。結果については、教科の調査において三教科ともに県・全国の平均値を上回りました。「学習方法を選択すること」を掲げ、学び方を定着させることによる学びの主体性を高めてきた成果が表れています。六年生の学力の状況から、他の学年における取組を構想し、東っ子の学力向上を実現していきたいと考えます。

〔国語調査〕「読むこと」「話すこと・聞くこと」の力が高いが、「書くこと」の力と言葉の使い方の理解と漢字の活用力の向上が必要です。

〔算数調査〕「知識・理解」の観点で高い結果が見られましたが、「目的に合った数の処理の仕方」や「数量と割合の関係」などについての理解を深める必要があります。

〔理科調査〕どの項目においても正答率が高く、学習内容の定着の高さが感じられましたが、観察や実験で得た結果を分析、解釈し、考えを持つことに課題が見られました。

〔質問紙調査〕「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標を持っている」「人の役に立ち人間になりたい」「決めたことはやり遂げる」「友達と協力するのは楽しい」の五つの問いの肯定率は県・全国値に比べ高く、自己肯定や自己有用に関する意識が生活における充実度と関わっていることがわかります。その反面、「就寝時間・起床時間」「地域での大人との関わり」「地域行事への参加」については回答にバラつきと肯定率の低さが見られました。家庭生活の多様化とともに、感染症による活動の制限等により、子供たちの生活への影響とも考えられます。

## 教科ごとの平均正答率の比較

今回の調査結果をもとに学力向上に向けての取組を、①「授業の工夫改善」②「学習の細かい評価」③「家庭学習の充実」としました。特に③につきましては、家庭学習の習慣化と質の向上を目指していきたいと考えます。お子さんご家庭での学習や生活についてご支援いただければ、より効果的な取組が実現できます。よろしくお願致します。

## 命を守る東っ子であれ

九月一日は防災の日でした。当日は、台風十一号の接近と重なり、警戒の中、一日を過ごしました。令和二年七月豪雨で被災した本校は防災への意識を高く持ち、命を守る取組の日常化を図っています。当日は防災主任（養護教諭）から東っ子に向けて講話を行いました。「被災当時の振り返り」「災害時の避難方法」そして「災害への備え」という視点で一人一人に向けて防災の知識と構えづくりへの指導を行いました。学校で学ぶことを家庭生活で生かし、命の大切さを「わかり・感じ・行動できる」東っ子であることを願います。牛深東校区一丸となって子供たちを守っていきましょう。

9月1日は何の日か知っていますか？1923年に関東大震災が起こり、この震災を忘れず、災害への備えをしっかりとしようとして9月1日を「防災の日」と制定されました。また、この時期は台風が多く、災害が発生しやすいことも理由のひとつといわれています。

令和2年7月には牛深東小学校も大雨の被害に遭いましたね。とてもつらく、心を痛めた体験です。このような災害はいつ起こるかわかりません。

家族での避難場所(集合場所)を決めていますか？牛深東小学校校区の避難所は、次の通りです。しかし、地震や津波、高潮の場合には高い場所に避難が必要です。お家のひととこの機会に避難場所を話し合っておきましょう。

保健室前に掲示をしています。避難する際には、避難所で過ごすための食料などの生活に必要なものを持って行くことが大切です。避難場所と合わせて避難するときに持って行くものも準備しておきましょう。みなさんやみなさんの家族の命を守るための備えです。しっかりと準備をして命を守りましょう。

## 怒りをコントロールする術

私たち教職員は、絶えず研究と修養を重ねて、効果的な指導のあり方を求めるとともに教職員としての自覚を深めることに努めています。先日は、アンガーマネジメント、つまり、感情のコントロールの方法について研修しました。怒りのピークは長くても6秒だと言われています。激高するような怒りでも、6秒をやり過ぎれば怒りに任せて衝動的に行動しにくくなるそうです。やり過ぎずテクニックとして怒りを数値化する方法があります。0がまったく怒りを感じない、10を人生最大の怒りとして、今の怒りがどの数字かを考えます。数字に意識を向けている間に6秒たちます。その6秒間の作り方の視点が以下の二つです。

①「『イラッ』『カチン』ときたら6秒待つ」②「視点を変化させ、考えてみる」つまり、感情(怒り)を自分の力でコントロールできるかを考えることだそうです。それを実現する3つの方法が以下のものだそうです。

A: 癒しを思い出す言葉を考える  
例 モフモフやフワフワ・可愛い動物 等

B: 思考を切り替える言葉を考える  
例 あの人は何しているだろう(別の人や物) そのころサバンナでは(別の場所) 等

C: 客観的に捉えられる言葉を考える  
例 明日の今頃は忘れてる 等

「怒らなくていいことは怒らない」「怒るなら適切な表現や場所を選ぶ」「自分の感情に責任を持つ」という3点です。アンガーマネジメントの基本的な考え方です。皆様方にとっても参考になれば幸いです。

## あともがき

本校は「学校情報化優良校」に認定されました。この制度は、日本教育工学協会の審査により総合的に情報化を進めたと認定された学校に対して行われるものです。本校では、タブレット端末を活用した授業や情報教育の工夫、校務の情報化を進めています。その成果もあり、子供たちの学びにも変化があらわれてきました。意見を交流する際に、自分の考えを言葉で述べるだけでなく、タブレットPCで表現した文や資料を示しながら言語活動を進められるようになってきています。また、教師が提示する教材や資料もモニターで映し出したり、タブレットPCを通して一人一人に提示したりすることができるようになりました。さらには、子供たちが自分の学びのペースやめあてに応じて問題を選んで取り組むタブレットドリルの導入や、出席、健康観察の電子化も進めています。ICT化が最善の策ではありませんが、効果的に活用することにより、子供たちの学ぶ力は劇的に変容すると考えます。今後もより多様な活用について検討し、学力向上を図るとともに、未来の社会で対応できるスキルの定着を目指していきたいと思ひます。取り組みへのご理解とご協力をよろしくお願い致します。





にかっ き ひがしっこ  
二学期に東っ子が  
やり通す5つのこと

# できる まもる がんばる みにつける

その①「できる」ために  
いつでも、どこでも、すぐに  
できるようになろう

「あいさつ」「へんじ」  
「歩き方」

その②かならず「まもる」ために  
できなかつたら・できたら  
どうなるかを考えて行動しよう

「じかん」「ルール」  
「やくそく」

その③しっかり「まもる」ために  
まもれなかつたら・まもれたら  
どうなるかを考えて行動しよう

「東小なかよし法」  
「なかよくすごす12の方法」

その④「がんばる」ために  
自分の弱さに負けないように  
勇気で、自分の強さを見つけよう

「やさしくつよいところ」  
「じょうぶなからだ」

その⑤「みにつける」ために  
友だちも、自分も納得できるには  
どんな話し方、聞き方がいいのかを  
考えて実行してみよう。

「わかりやすく話す」  
「しっかり、ぜんぶ聞く」